ひとりごと

昨年度を振り返って

自分は中学校、教育委員会での勤務を経て、昨年度より文部科学省での派遣研修、東京での暮らしも2年目を迎えた。昨年からのコロナ禍での新しい生活様式にもかなり慣れてきたように思う。ここでは、東京生活で感じた事などを書かせていただこうと思う。

まず、東京で生活をして感じたことだが、方角が分からなくなることである。田舎育ちの自分としては、これまで自然と海や山を方角の目印として生きてきた。東京の街並みはビルに囲まれ地下鉄の駅から地上に出た途端、方向感覚を失う。また、健康のために最近、帰宅時に一駅分歩くことを日課にしているが、昨年4月の緊急事態宣言の中、人も車もいない銀座の街を見ることができたことは貴重な体験だったと思う。

学校で勤務していた頃、尊敬する先輩に言われた「教師は、四季を感じることのできる素晴らしい仕事だ」という言葉を思い出す。春は卒業式や入学式、夏は部活動の大会、秋は体育祭や文化祭、冬は修学旅行等々、行事によって季節を感じることが日常だった。学校現場を離れ数年になるが、季節の移り変わりを感じる機会が少なくなったような気がする。教師という仕事のやりがいは様々あると思うが、仕事を通して四季を感じることができることは幸せなことだ。

最後に、年末年始を静かな東京で過ごしたことも貴重な思い出のひとつとなった。そんな寂しい年末年始、地元からのこんなメッセージに支えられた。

『ばかたれーっ!!
ふーっ、ふーっ……いきなり取り乱して大変失礼しました。広島県観光連盟です。実はわたしたち、東京に住む同郷のみなさんへ、「帰っておいで」と帰省応援のメッセージをお届けする予定でした。でもまたコロナウイルスのせいで、お蔵入りに……。一体いつになったらみんなに安心して帰っておいでと言えるのか。本当に寂しくて、悔しい想いです。だから、今回ばかりは叫ばせてくれませんか。コロナウイルスのばかたれーっ!!わしらは負けんけえー!!!!…って。東京に暮らしている広島人のみなさん、なかなか会えんのは寂しいけれど、こっちはこんな感じで元気にやっとるよ。みなさんの帰る場所は、絶対、無くなりゃあせん。じゃけぇもうひと踏ん張り、一緒に頑張ろうや。また会えるのを、待っとるけぇ。』
（出典：広島県観光連盟 https://www.hiroshima-kankou.com/news/809）

（T．M）